

## 「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部4年 飯田 萌菜実

## ① 学習成果

留学に参加する前は、自宅で韓国語の教材を読む程度にしか学習をしていなかった。第二外国語で選択したわけでもなかったため、わずかな量しか学習できていなかった。しかし、今回のプログラム期間は、授業はもちろん、ホテルに帰っても毎日1時間程度学習をし、休日は一日中ホテルで学習をしていた。この学習の成果として、言語を学ぶ面白さを感じたとともに、言語を学ぶことがその国の文化を学ぶことにもつながると強く感じた。実際、韓国語を学ぶ過程で漢字語などが多く見受けられ、文字でも文化でも中国の影響を受けていることを肌で実感することができ、日本語と同じく尊敬語が存在することも初めて知ることができた。また、大学は卒業してしまったものの、今回の留学を活かして学習を継続し、延世大学に正規留学したいという大きな夢を持つことができた。

## ② 海外での経験

海外で長期間過ごす経験は今回が初めてだった。旅行とは違い、通学や買い物などもより日常的に行う必要がある、コミュニケーション能力が大いに向上したと感じる。実際、ホテル下のコンビニに足繁く通った結果、店員の方と仲良くなり二言程度ではあるものの買い物のたびに会話をすることができた。これは短期間の旅行等の滞在では起こりえないことであるため、貴重な経験となった。また、電車での通学であったが、韓国の通勤ラッシュの時間とも重なったため、日常的な風景を見ることができたこともよかった。

## ③ プログラム内容

プログラム内容に関しては、大満足だった。言語の授業に関しては、優しく丁寧な2人の韓国人教師のもとで文法・会話の練習をすることができた。先生は全員にしっかりと発言する機会をくださるため、安心して授業に取り組めた。さらに、初日には全く聞き取れなかった先生の言葉が、最終日にはおおかた聞き取れるようになり、かなりの成長を感じるプログラムだった。私のクラスは明るく積極的なメンバーばかりだったため、授業中の先生との会話も他のクラスよりも活発で、その過程において、日常会話で使用できるフレーズや相槌の表現などを習得することができた。毎日の宿題もその日に習ったことの復習にとどまらず、自分の意見を表現するための課題等もあり、学習に大いに役立った。休み時間に先生に質問をしたことも何度もあったが、いつでも納得できるまで丁寧に分かりやすく教えていただけたため、躊躇せずに質問することができ、疑問点を日本に持ち帰ることがなかったこともとても良かった。そして、クラスメイトと授業終了後も昼食を取り、遊びに行くなど多国籍な交流をすることもできた。

## ④ 進路への影響について

先述した通り、延世大学に正規留学したいという大きな夢を持つことができた。今までの人生で考えてもみなかったことであるため、今回の留学が私に与えてくれた影響の大きさを改めて認識した。また、小さな目標にはなるが、TOPIKの受験にも意欲的になることができ、年内に初受験をしようと思った。総じて、私にとって今回の留学は私の今後の人生を大きく左右するほどの感動と影響を与えてくれたものだった。

## 日韓関係の講義とICUの講義について

日韓関係の講義にはもともと期待していたが、想像以上に楽しく有意義な時間だった。日韓の歴史認識というと扱いにくいトピックであるためなかなか講義を受ける機会はなかったが、ここまで踏み込んだ内容の授業を受け

るのは初めてだった。教授はどちらの国の肩を持つわけではなく、各できごとにおいて常に冷静な見解を持たれていて尊敬の念を抱いた。特に、伊藤博文暗殺の背景についての見解はとても面白く、私の考えとも近い気がした。また、その他にも高校までの授業で習っていないことも知ることができ、日韓関係の問題にますます興味を抱いた。

ICU の講義では、まず延世大学の留学生のレベルの高さに驚いてばかりだった。英語を母語としない生徒も積極的に手を挙げて意見を表明している姿を見て、私も負けていられないと強く感じた。講義の内容については、k-pop が政治等に与える影響や国によるファンの違いなどを扱っており、ディスカッションテーマとしてもとても話しやすくそれぞれの国の特徴を知ることができ楽しい時間だった。